



たくさんあるので、普段はこうして置いてある

代わって目にとまったのがNゲージだ。Nゲージとは、実物の150分の1のサイズで、線路幅が8ミリの鉄道模型。たまたまネットで見つけ、買い求めて以来、中古のNゲージ収集にはまってしまった。そこにはすでに走っていない古い車両もたくさん残っていたからだ。

それから20年、集めた車両は800両にもなる。一番高いのは機関車で、1両2万円くらい。客車は1両千円程度のを10両つなげるので1万円くらい。古くてもいい車両は高い。バラ買いして、自分なりに1セットを組むことも多い。

一番のお気に入りには、前面が出ているボンネット特急。そして、鼻がポコッと出ているので、ブル



この小さなパンタグラフがよく壊れる

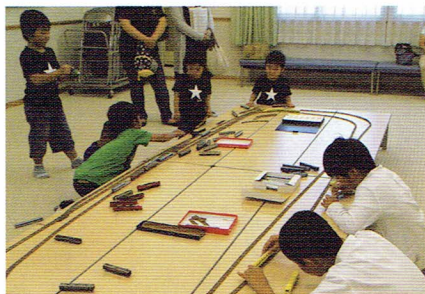
ドックと呼ばれるジーゼル。また、電気がつき、カーテンもあるトワイライトの食堂車。小さいとはいえ、夜に見るときれいだ。そして、北斗星の機関車や「あかつき」などのジョイフルトレイン。これは5編成60車両くらい持っている。安いものからは部品を取り出して、故障時の部品交換に使う。よく壊れるのはパンタグラフや連結器だ。部品は常時、最低2セット分を持っている。メンテナンスは大変だが、この修理が楽しいのだ。部屋に入ったたら、2時間は夢中になる。「動かしてこそ、見てもらってこそその趣味」だから、修理は欠かせない。

子供たちを集めてNゲージの運転会

そうしているうちに、各地の自治会から、子供たちのためにNゲ



運転会に持っていく車両を選ぶ



子供たちに人気の運転会

もちろん、廃車になった電車とかスキー列車など価値のあるものは譲れない。これから欲しいのは、すでに走っていない岡山の「ゆうゆうサロン」。機関車は手に入れ

い運転会を開催してほしいという依頼がくるようになった。今の子供たちは、新幹線はよく知っているが、在来線にどんなものがあるか、はあまり知らない。いい機会だと思った。

1回の運転会には10両編成を6セット程度持参する。線路は1周10mから15mくらい。ポイントは4つ、ほかに電源パック。これらを車に載せて会場に向かう。

子供たちは興味津々で、説明する前から触ろうとする。説明では、「鉄道模型というのはいかにも走っていますよ。昔はこんな電車が走っていましたよ。今、人気のある電車はこれですよ」と伝える。そして、実際に運転させ、ポイントの切り替えも教える。

夢中になるのは、子供だけではない。親のほうがテンションの高いのだ。

いときもある。大人でも昔の車両を知っている人は少ないのだ。カーブをスピード出して走ってきた車両が脱線すると、直してくれたりする。

この活動はまったくのボランティア。子供たちが喜んでくれることがなにより嬉しく、上手に遊んでくれれば、ああ、よかったなと思う。

また、欲しいという子供がいれば、無料で提供することもある。知り合いの学校の先生とか、自治会の役員でお世話になった人などには、取りに来てくれれば、1セットと線路と電源を差し上げますと伝えている。車両は動かさなければ、ダメになる。だから、安くてもたくさんあるものは、子供たちに実際に遊んでもらったほうがいいのだ。